



金剛城寺

推古天皇の頃、三論宗の高麗の僧・惠灌法師により滋岡寺として開基され、一時期、作門寺と称していましたが、昭和3年に寺号を金剛城寺と改めました。真言宗の名刹であり、新西国第三十番札所としても有名です。4～5月にはオキナグサの群生を見ることができます。



旧小國家住宅 (国登録文化財)

江戸時代に庄屋を務め、幕末から明治にかけて活躍した小國鐵十郎の生家です。また、明治から昭和にかけて地域医療に貢献した小國積治の生家でもあります。平成19年には、主屋・診療所・長屋門・土塀が神崎郡初の国登録文化財となりました。



沙羅の花

應聖寺

天台宗比叡山延暦寺を本山として、白雉年間、天竺の高僧法道仙人によって開基されたと伝えられています。名勝應聖寺庭園 (県指定重要文化財) を有し、沙羅の花 (6月中旬～7月初旬) の咲く寺としても有名です。



大善寺

姫路城築城に際し、心柱を供出したことや姫路城から見て鬼門にあたるなど、姫路城と係わりが深い真言宗の寺です。初夏にはアジサイが境内を彩ります。



日光寺

大化元年 (645)、法道仙人の開基と伝える真言宗御室派の中本山です。天武天皇の勅願寺、霊元天皇の御猶子の隠居所としても栄えました。標高408mの日光寺山頂からの眺めはすばらしく、姫路平野を一望できます。



観音寺

井上通泰の歌碑

慈覚大師の開基と伝える天台宗の寺。柳田國男の実兄、井上通泰の菩提寺でもあります。境内には、通泰が詠んだ懐郷の歌「うぶすなの社のやまもも ふる里は はかなきことも こひしかりけり」の歌碑があります。



二之宮神社

磐座

祭神は宍粟市伊和神社の神の御子・建石敷命。播磨国風土記ゆかりの神前山の麓にあります。山上には建石敷命がここに降り立ち、鎮座したとされる大きな岩「磐座」があります。



神前山

播磨国風土記

和銅6年(713)に朝廷が諸国に命じて作成させた「播磨国風土記」。古代の神話や伝承、地域の地名由来について知ることができる貴重な資料です。この播磨国風土記の中の「神前郡条」には古代の神崎郡に関する説話が収められ、福崎町に関する説話も登場します。地名説話としては、建石敷命という神様がいたとする神前山や、檜で有名な奈具佐山、新羅の王子と伝わる天日杵命の軍勢が八千いたために名付けられたという八千軍野などが紹介されています。神前山、七種山、八千種など、現在につながる身近な地名が登場するのも風土記の魅力。1300年の時間をさかのぼって、歴史のロマンに触れることができます。

福崎には、時代を超えて脈々と受け継がれてきた歴史と伝統があります。寺社をはじめとする貴重な文化遺産も町内に多数点在。歴史散策に絶好の名所旧跡に恵まれています。

福崎の

歴史



岩尾神社

岩尾神社本殿 (県指定重要文化財)
天八意思慮兼神・大山作神・大国主命を祭神として、播磨の国造を奉祀しています。正暦2年(991)、慶芳上人が神積寺を開基する際に、本神社へ文殊像を合わせ祀って鎮守としたと伝えられています。1千年余の間、鎮守として親しまれてきた神社です。



石造鳥居 (県指定重要文化財)

総高3m28cm、全長4m96cmの凝灰岩製で、笠木の両端がゆるく反り垂直に切られています。沓石を用いていない点や、高さの割合に比べて幅が広く柱の内転もない点は、古調を帯びた造りです。両柱の正面には銘文が刻まれ、慶長16年(1611)に造られたことと石工の名前がわかります。



石橋 (県指定重要文化財)

岩尾神社前の雲津川にかかる反り橋式の凝灰岩製の石橋です。長さ5m70cm、幅1m76cmです。岩尾神社石造鳥居と同時期に造られたと考えられています。



神積寺

天台宗比叡山派に属し、正暦2年(991)、慶芳上人によって開基され、一条、三条両天皇の厚い帰依を受けたと伝えられています。播磨天台六山の一つに数えられ、本尊は薬師如来、脇士に文殊菩薩、毘沙門天を安置。文殊菩薩は、俗に田原文殊として知られます。成人の日に追儺(鬼追い式)が行われます。



阿弥陀種子板碑(県指定重要文化財)

高さ1m53cm、幅82cm、厚さ18～21cmの堂々とした凝灰岩製の板碑です。正面に大きく阿弥陀如来の種子「キリーク」が薬研彫りで刻まれています。この種子の下の銘文により後堀河天皇の皇后で弘安9年(1286)に崩御された安喜門院の百か日に建立された供養塔であることがわかります。



石造五重塔(伝慶芳上人墓)(県指定重要文化財)

石造の塔で層塔と呼ばれるものの一つ。神積寺西方の丘上に東面して建ち、慶芳上人の墓として伝えられています。総高2m41cm、凝灰岩製で軸部の3面には薬研彫りで種子が刻まれています。無紀年ですが鎌倉時代中期のものと考えられています。

木造薬師如来坐像 (国指定重要文化財)

神積寺開山である慶芳上人が自ら彫り、安置したと伝えられる木像。本尊で60年に1度開帳される秘仏としても知られています。像の高さは88.5cm、作風は温雅このうえなく、この地方の藤原仏を代表するものです。

